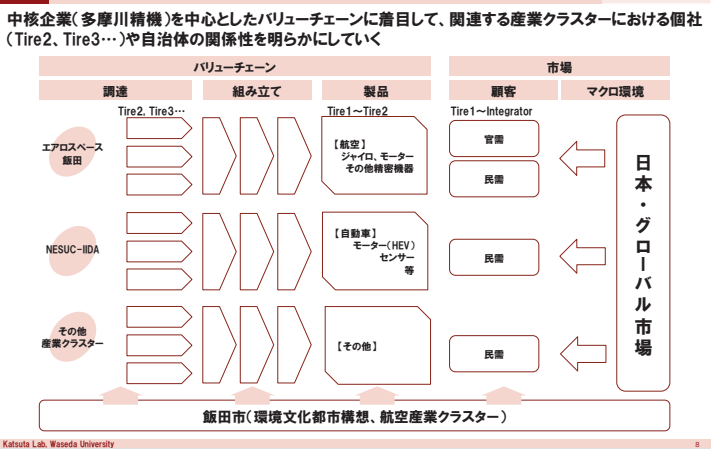
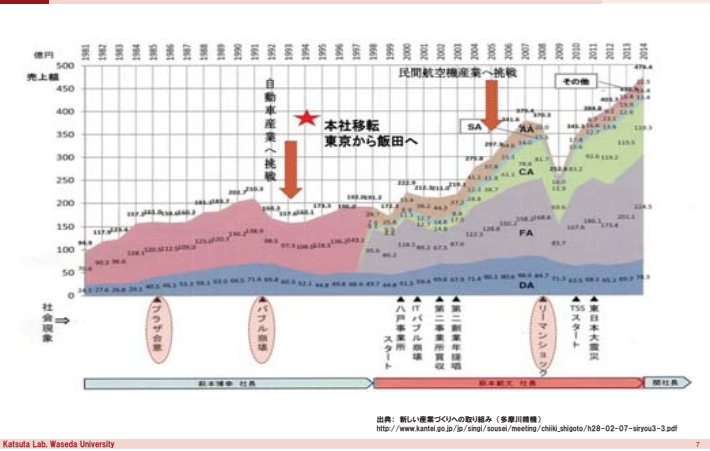




- 初期見解
- 2000年代以前の産業クラスターは地域内の企業間の取引・交渉力のバランスを保つために形成されてきた
 - 例えば、多摩川精機(交渉力:大)と、そこへ納入する企業(交渉力:小)との間バランスを確保
 - 2000年代以降の産業クラスターは、グローバルでの産業競争力向上の観点から、地域を超えたエコシステムを形成するために政府も積極的に後押ししてきている
 - 航空宇宙産業
 - 飯田市は、上述(2000年代以前、2000年代以降)の産業クラスター形成に行政・企業が主体的に関与してきている
 - その結果、中小企業の個社の技術力が向上してきていることで、様々な派生製品を生み出す潜在的な力を保有しつつある
 - 現状は産業間の水平的な連携の必然性が低いことから、個別の要素技術力の向上に留まっている面もある
- 初期仮説
- 産業クラスター形成の2つの大きな波に乗って、個社の(要素)技術力の向上を実現してきている
 - その過程において、行政の支援(経済的、制度的)による面と、地域の主体的なTier1サプライヤ(多摩川精機)の与えた影響が大きい
 - 今後は産業間(加工産業、電子産業)の擦合せ、製品インテグレーションに向けた能力確保に向けた取り組みが必要か

